

■ やましろの住民自治の力を学ぶー「ふるさと再生京都懇談会inやましろ」

2012年夏のふるさと再生京都懇談会は9月1日～2日にかけて交流会を開催しました。

やましろの自然を大切にしているNPO法人「やましろ里山の会」の活動を常務理事である山村武正さんからお話を聞き学びました。自然の草花・動物たちの話に、木津川兩岸を見直すことになりました。また、京田辺の「普賢寺ふれあいの駅」助役、中西稔さんからもお話を聞くと同時に、翌日、現地におじゃまし実際にふれあいそのまづくりを実感しました。



里山の会は、会員250名、年間決算827万円、イベント回数109回、のべ参加者数7,453人という環境問題をテーマにする団体として相当大的な運動をしておられます。なにがその力になってきたのか考えてみました。始めには、学研都市開発に対して、現地の動植物の発見と保存という運動で開発からしっかり成果を残すことができ、参加したみんなが確信を持つことができたことです。

こうして、NPO法人として本格的な動植物の発見や成果の報告から、その実績を着々と広げられ、地域のまづくりに大きな影響を持って来られるまでになっています。また、自由にしたいことを思って参加される大勢の人が、組織的に協力していく、その組織運営の方法もうんちくのあるお話でした。

この里山の会と連携して、地域を守り育てたいと農業振興を軸にがんばっておられるのが、京田辺市の普賢寺の直売所ふれあいの駅のお話でした。住み続けられる地域づくりの本当の姿を見た思いです。地域が寂れる事への不安から始まり、いまの日本社会のあり方までも考えさせられる活動でした。いずれも控えめな言葉でご報告いただいたのですが、ビッグな内容でした。詳しくは「ふるさと再生京都懇談会inやましろ」をホームページご覧下さい。

<http://www.hurusato-kyoto.com>

■ ふるさとニュース

農家組合で自然エネルギー

京都中部の農家組合は山間地という特性を生かし自然エネルギーの活用に取り組もうという計画を立て、市の補助金も受けて計画を進めることにしています。豊富な水を生かしての水力と風力を併用したいという構想で、プロジェクトチームを作り研究を始めます。

京丹後市でも

民商会員さんを中心にピコ水力発電の研究がすすんでいます。先進地の視察をはじめ、用水路発電機のセットも購入。集落に案内したところ30名もの人が集まり、進水式をされたようです。すでに注文も入っていると。「遊び気分ではやれないな」と目の色が変わってきたとのこと。研究会には鉄工所、電気屋さん、織物業者、郵便局員などが参加しています。

「脱原発・再生可能エネルギーとふるさと再生」村田武・渡邊信夫編が売れています。

懇談会世話人渡邊信夫さんが編者に加わっているこの本は懇談会で販売をしていますが、好評で先日追加発注をしました。収益の一部は懇談会にも還元される予定です。

9月18日には出版を記念しての祝賀会が盛大に開催されました。

■ 行事・学習会のお知らせ（会員のみなさまの御参加をお待ちしています）

京都自治体学校

12月1日（土）～2日（日）京都アスニーで開催

- ・記念講演 井内 尚樹さん（名城大学教授）「脱原発・エネルギー再生社会へ」
- ・特別報告 菅野 典雄さん（飯館村村長）「被災地の今」
- ・課題別教室①ふるさと再生②保育③生活保護④地域経済振興⑤医療